

# ひとを育てる活動

## SDGs 4 「質の高い教育をみんなに」

ウボ民族の未就学児30名にも教育の機会を



右端ロバートさん、中央がアニータ先生  
(タビラ地区礼拝所で)

ワーカホリック(仕事中毒)を自認の先住民族学校のアニータ先生。ほぼ毎日届くメールは、「今ティヌオスです」「今日はセブ湖の島の学校にきました！」等々、日々、所を変えての報告ですが、12月8日付には「タビラにいます！」と、聞き覚えのない村の名前があり、礼拝所で撮影したという写真が添付されていました。レイクセブ町北西部バランガイ・ランプゴン村のウボ民族が多い地区からでした。バランガイ中心部の公立小学校は幼い子どもには遠過ぎて、幼稚園から低学年の30名ほどが未就学ということです。体力がつくと公立に通いますが、学業の遅れは否めません。

ミンダナオ島山岳部のアニズム系先住民族の支援は、まずはキリスト教のミッション活動として、長老から土地の提供を受けて、礼拝所が作られ、教育支援のための教室建設に進むケースが多くなっています。

「礼拝堂が使えますね」と返信したところ、そのつもりであり、当面、教師はプロジェクト担当兼ドライバーのロバートさん(SCMSI地域開発科卒)が担当の予定とか。

このタビラはサランガニ湾に面するモロ民族の町マイタムに繋がる幹線道路沿いにあり、法的には「チボリ・ウボ民族先祖伝来の土地」保証を受けています。しかし医療費支払いに困るケースなど、開発業者に土地を貸してしまう住民も多いということで、アニータさんとしては、教育に加えて、バナナ苗木植栽などの支援も並行させたいということでした。

次年度の当団体事業予算には、低体重、栄養不良の子どもの多いというこのタビラでの給食費や、アグロフォレストリー用苗木代など多少でも組み込めたらと思っています。

### SCMSI校短信(1/19付ガンダム学長のメールより)

マニラはオミクロン株感染拡大でロックダウン中ですが、レイクセブは大丈夫です。ただし、対面授業は避けて、週1回登校の際、課題提出や必要な場合は個別指導を受ける方法をとっています。新型コロナの早い終息を願っています。

## CMIP奨学生報告

民族衣装で正装のカレッジ奨学生

11月半ば、年1度の奨学生報告が届きました。奨学生それぞれがビラーンやチボリ民族の正装姿でした。CMIPにも2022年度をもって支援終了の可能性と、新たな奨学生採用はしないことを伝えています。また、7名それぞれの卒業あるいは国家試験までの支援も約束しています。教師、医師、警察官等目指して頑張ってほしいと思います。



医学部4年  
ジェニー



教育学部  
英語専攻3年  
ジェーン



教育学部  
理科専攻3年  
アリアン



初等教育学部  
3年オリエル



刑事学専攻  
3年ジョンマーク



教育学部数学専攻  
3年キンバリー



教育学部体育専攻  
1年ナーシー

### カトリックミッションと先住民族教育支援

12月上旬、「ボルールのCMIPの教会や小学校用地について、パンダット家から返還要求が出ている」という話が耳に入り、TBAと協働のヤギ飼育事業に関連して、牧場用として返還請求したのではと、CMIP代表マニー神父に確認しました。この件はTBAパンダット代表の父母によるもので、今に始まった問題ではないということでした。

ボルールはミッションによる先住民族への宣教や教育支援の原点です。レイクセブ町のチボリ民族についても、1959年に始まったビラーンの村ボルールの事例を聞いて、長老たちが土地を提供し、サンタクルスミッションが教会と学校を建て、教育支援が拡充したという経緯があります。

公立が増えることで、ミッション校の役割は順次減り、教会に提供されていた土地返還が進みました。

### あしなが奨学生2名の近況より

ジナツフェは2年生前期を終えましたが、両親を亡くし祖母と暮らす社会福祉科1年のジョルダン(右写真)はコロナ下の在宅学習でモチベーション維持が難しかったのか中退報告が届きました。

